

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実																																										
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）																																										
<table border="1"> <caption>一人一人の児童生徒の尊重</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思わない</th> <th>そう思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>23%</td> <td>63%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>55%</td> <td>38%</td> <td>5%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>21%</td> <td>70%</td> <td>7%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	23%	63%	10%	2%	2%	生徒	55%	38%	5%	2%	0%	教職員	21%	70%	7%	2%	0%	<table border="1"> <caption>道徳・心の教育の充実</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思わない</th> <th>そう思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>23%</td> <td>63%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>17%</td> <td>66%</td> <td>13%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	23%	63%	10%	2%	2%	教職員	17%	66%	13%	4%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	23%	63%	10%	2%	2%																																						
生徒	55%	38%	5%	2%	0%																																						
教職員	21%	70%	7%	2%	0%																																						
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																						
保護者	23%	63%	10%	2%	2%																																						
教職員	17%	66%	13%	4%	0%																																						

<考察> 「一人一人の児童の尊重」について、教職員の「4」「3」の割合は91%の高水準であった。ただ、保護者の「4」「3」の割合は、83%であり教職員との意識の差が大きい。ただ、昨年度と比較して、児童の「4」「3」の割合が78%から86%に改善されている。学期に1回全児童との面談を実施した等の取り組みが実を結んできている。今後も継続して、全児童と関わる時間を確保して困り感を改善する取り組みを行ってきたい。「道徳・心の教育の充実」の「4」「3」の割合は、教職員91%でおおむね取り組んでいるという評価であったが、保護者の「4」「3」の割合は、83%で昨年度よりも厳しい評価であった。日頃の道徳・心の教育の取組を発信することがまだ不足していると思われる。学級通信、道徳ノートの持ち帰り等で学習の状況を定期的に伝えていくことが必要である。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用																																																
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。																																																
<table border="1"> <caption>授業力向上</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思わない</th> <th>そう思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>29%</td> <td>52%</td> <td>15%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>17%</td> <td>66%</td> <td>13%</td> <td>4%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	29%	52%	15%	4%	0%	生徒	43%	48%	7%	0%	0%	教職員	17%	66%	13%	4%	0%	<table border="1"> <caption>タブレット端末活用</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思う</th> <th>どちらかといえば、そう思わない</th> <th>そう思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>37%</td> <td>42%</td> <td>15%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>60%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>23%</td> <td>66%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	37%	42%	15%	6%	0%	生徒	60%	35%	5%	0%	0%	教職員	23%	66%	11%	0%	0%
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	29%	52%	15%	4%	0%																																												
生徒	43%	48%	7%	0%	0%																																												
教職員	17%	66%	13%	4%	0%																																												
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	37%	42%	15%	6%	0%																																												
生徒	60%	35%	5%	0%	0%																																												
教職員	23%	66%	11%	0%	0%																																												

<考察> 「授業力向上」について教職員は、「4」「3」の割合が83%で、保護者の「4」「3」の割合は、81%でほぼ同様の評価であった。教職員の評価が昨年より低下したことは、授業についてもっと上のレベルを目指そうとする表れだと考えられ、プラスに評価できる。その意識の変容が児童の「4」「3」の割合の変化に表れている。（78%から86%へ上昇）今後も、現状に満足せず授業改善に取り組んでいくことで、児童、保護者のニーズにこたえるしっかり考え学び合う中で、「分かる授業」「楽しい授業」に転化していくことが重要である。「タブレット端末活用」については、教職員は「4」「3」の割合が91%、児童は「4」「3」の割合が95%で学習に活用できていると感じている。ただ、保護者は、「4」「3」の割合が79%で昨年度よりもさらに低下した。家庭でのタブレットの使用状況が学習とかけ離れている可能性がある。情報教育担当を中心に子どもたちの家庭でのタブレットの使用状況を検証する必要がある。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p><考察> 「学校の支援体制」は教職員は「4」「3」の割合が96%であった。しかし、保護者の「4」「3」の割合は71%であった。「共生社会を担う人材の育成」についての「4」「3」の割合は、職員が78%、児童が81%、保護者が70%とであった。保護者の回答で「学校の支援体制」について23%、「共生社会を担う人材の育成」について24%の方が、「分からない」と答えておられた。児童も「共生社会を担う人材の育成」について16%が「分からない」と答えており、昨年度と比較しても分からないの割合が増加している。、本校の支援体制、交流学习について、学級懇談会等で丁寧に情報発信をすることで必要であるとする。児童については、年度当初に全学級に交流学习に意義を説明する機会を設け、他者に共感する力を育て、協働で活動する喜びを味わわせることで、共生社会を実現していこうとする態度を育てることができると考える。そのような取り組みを特別支援コーディネーターを中心に実践することで、理解が進み肯定的にとらえる方の割合を増やすことができると考える。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p><考察> 「安全と事故防止」については、教職員と児童は、「4」「3」の割合が96%、98%であった。保護者は、「4」「3」の割合が81%で開きがあった。新型コロナウイルス感染症による行動制限を緩和したせいか、保健室来室数、学校から病院へ搬送した事案が昨年度に比べ増えているように思う。「ヒヤリハットの法則」を常に念頭に置き、日頃のヒヤリをなくしていくよう、より一層日々の安全教育を充実させなければならない。「家庭や地域との連携協力」については、教職員の「4」「3」の割合は、91%、保護者の「4」「3」の割合は、75%と開きが大きい。保護者参加の行事の人数制限等を撤廃したが評価は下がり続けている。日頃の保護者と電話連絡でのつながりは十分できていると考える。今後は、以前実施していたような、保護者が参加できるような教育活動（持久走大会の参観、花の苗植え等）を仕組むなどの手立てを講じていく必要があると考える。</p>	

⑤ 学校独自の評価	
9 自立	10 あいさつ
子どもたちは自分のことは自分でやっているのか	子どもたちは自分から進んであいさつをしているか
<p><考察> 「自立」については、児童の「4」「3」の割合は92%と高く、保護者、教職員の「4」「3」の割合は、65%、78%と低い状況であった。やれないからといって大人が先に手を出しすぎているだろうか。児童に困り感を持たせないと習得したいという気持ちは芽生えてこない。今後は、状況を見ながら、困り感を感じさせることも児童の育成につながると考える。「あいさつ」については、児童「4」「3」の割合は83%であった。教職員と保護者は低く「4」「3」の割合が57%、60%であった。校内では朝から1年生が挨拶運動を行っている。ただ、その動きが他学年に波及していかない。また、校外では昨年に比べるとよくなったがまだまだ挨拶は課題であるというご意見を耳にする。この課題を子どもたちに話合わせる機会を設け、委員会等で取り組むなど自分事として取り組む活動を仕組むことが必要であるとする。</p>	

⑤ 学校独自の評価	
11 学習意欲	
子どもたちは一生懸命学習に取り組んでいるか	
<p><考察> 「学習意欲」については、児童の「4」「3」の割合は、90%であり学習に意欲的に取り組んでいると肯定的に捉えている。しかし、教職員の「4」「3」の割合は、78%。保護者の「4」「3」の割合は、82%とそれぞれ10%前後の差が見られた。教職員については、授業で児童の意欲を引き出せていないという自分自身の反省の結果だと肯定的に捉える。今後、児童の意欲をかきたてる授業づくりに全職員で取り組んでいきたい。保護者の評価低い背景には、家庭学習への取り組み方に満足できないないことが考えられる。次年度は校内研修で、「意欲的に取り組む家庭学習」について研究を進めていくことも考えたい。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 「生活アンケート」を活用した個人面談の取組みを継続。
- 日常の道徳教育の充実。学級通信、道徳ノート持ち帰りによる指導内容の情報発信。
- 基幹教科（国算）を中心に児童が意欲的に考える授業への改善を今後も継続的に取り組む。
- 保護者にも協力を依頼し、校内外でのタブレットの活用状況を細かく調査する。事例を数多く集め情報教育担当を中心に活用法についての検討会を行う。有効な活用法について職員の共通理解、保護者への啓発を行う。
- 「特別支援教育」「共生の教育」について、特別支援部会を中心に保護者・児童に情報発信を行う。
- 保護者・地域を巻き込んだ教育活動・行事を計画し学校教育活動の様子を参観頂く機会を増やす。
- 児童が困ったときにすぐに手を出すのではなく、どうにか自分で解決できないか考えさせることに取り組む。
- 委員会活動等で自然にあいさつができるような取組みを児童を中心に行っていく。

学校関係者評価

- 個人面談の取組みは素晴らしい。次年度以降も継続して行ってほしい。
- あいさつは、家庭教育が負う面も多い。学校から保護者に協力を依頼して協働で取り組んでほしい。
- 読み聞かせで日頃からかかわっているのので、子どもたちの表情で学級の様子がわかる。笑顔いっぱいの学級が増えてほしい。
- 保護者の思いをより具体的に認識するアンケートの形式を工夫してほしい。
- 最近こどもたちから「面倒くさい」という言葉をよく聞くのが残念である。世の中は「面倒くさい」と感じながらもやらなければならないことが多い。学校生活でも「面倒くさい」ことに挑戦させてほしい。